

TOP RUNNER

新事業の推進や生産性向上において、最前線で活躍している社員を紹介します。
今回は、営業本部 営業企画室 販売促進担当の椿 美里さんに登場していただきました。

VOL.06

NAME

椿 美里

JOB

2018年入社
営業本部 営業企画室 販売促進担当

コミュニケーションの大切さと モノ・コトを生み出す 楽しさを知る

Q1 仕事内容を 教えてください。

カタログやチラシなどの印刷物の制作や、webサイトの管理といった販促ツールの作成を担当しています。その他にも、営業企画室の業務内容は様々で、予算・実績の管理やレンタル機材の運用、取引先管理なども担当。十数名で営業本部全体のサポートを広く行っています。



システム吊り棚足場協会の運営事務局として、「SSAマガジン」というwebコンテンツの運用も行っています。ぜひ、ご覧ください！

Q2 仕事に心掛けている ことはなんですか。

一緒に働く方々とのコミュニケーションを密に図ることです。開発本部にいた頃から関わってきたカタログ・チラシの制作業務では、実際にカタログを使用する営業の方々と常にコミュニケーションをとりながら打ち合わせを進めなければなりません。頼み事をする時は相手の方への感謝と敬意の心を忘れず、“やってもらって当たり前”とは思わないようにしています。

Q3 学びにつながった失敗談やうれしかったエピソードを教えてください。

開発本部にいた頃、施工業者の若手社員を対象にしたワークショップの運営を担当していました。初めての試みに右も左も分からない状態でした。特に苦労したのは、協力していただく営業の方々のやりとりでした。当時入社して半年だった私は営業の方と仕事をした経験がほとんどなく、面識のない方々に対して協力を仰ぐことに不安を抱えていました。しかし、ワークショップに関する説明会を開催したりこまめにメールを送ったりと、こちらからのアプローチを多く仕掛けることで、当日は多くの協力の下、無事に進行を行うことができました。ホウレンソウの大切さを知ったこのワークショップ。今でもイベント運営をする際には当時の経験が生きていると感じます。

Q4

業務効率の改善や
ビジョンを意識して
取り組んでいること
などを教えてください。

現在、webオーダーシステムの開発プロジェクトでマニュアル作成を担当しています。システムについてゼロから理解を深め、開発と同時進行でマニュアルへ落とし込む作業に日々難しさを痛感していますが、新たな挑戦分野である「開発」に関わることができて、とてもうれしいです。今の目標はとにかく一目で分かりやすいマニュアルを作成すること。会社の業務効率改善のための一助になればと思います。

Q5

今後の目標はなんですか。

今後の目標は“自分にできることを増やすこと”です。ありがたいことに、職場にはイラストレーターを始めとした、カタログ制作のためのツールが豊富に用意されています。そういったツールを使いこなし、カタログ制作のスピードを上げる。営業さんがより良く働けるように、サポートの幅を広げていきたいです。

また、もっと現場に行く機会を設け、カタログやチラシ制作での製品に関する理解はもちろん、システム吊り棚足場協会の事務局としてタカミヤと社外をつなぐためにも製品の知識を深めたいです。そのために現場に出る機会を積極的に作り、製品に関する勉強に励んでいきたいです！



TAKAMIYA

Compass

Contents

3 トップメッセージ

更なる価値提供に
向けてタカミヤに
できること

～ Takamiya Lab. Westの可能性 ～

2 “今”を紐解く vol.9

6 特集1 新たなサービスが無限に広がる
プラットフォーム
Takamiya Lab. Westが
ついに始動！

12 特集2 名古屋オフィスがリニューアル！
最先端オフィスがタカミヤの働き方を変える



“今”を紐解く vol.9

タカミヤと業界を取り巻く状況をさまざまな視点から読み解きます

変革の時代を迎える建設業界 そのDX化の最前線を見る

建設業界を取り巻く環境が大きく変わりつつある現在、時代の先を見据え、100年先も「なくてはならない存在」であるために、タカミヤの取り組みを紹介します。

昨

年は東京オリンピックや新型コロナウイルスの影響により社会情勢がめまぐるしく変動する一方、テレワークを始めとした働き方改革の推進など、時代を取り巻く環境の在り方が大きく変わった年でもあります。建設業界全体としても厳しい状況が続いた一年となりました。しかし、こうした変化はうねりの一端に過ぎず、現在の建設業界はより先を見据えた「長期時間軸での一大変革の時代」を迎えています。

そんななか、昨年から新たにスタートした「2021中期経営計画」において、大きなカギとなっているのが

DX化です。建築現場での人

手不足や労働者の高齢化が進む現在、限られた人員で、安全に生産性を向上させていくことが重要な課題となっています。DX化を進めることができれば、将来的には機材センターでの業務をほぼ全て自動化・省人化することが可能になります。

タカミヤでもDX化推進に向け、「Iqシステム」を始めとした「ハード」に機材の管理・

運用・コンサルティングなどの「ソフト」を融合させたサービスの開発が進められています。更に、こうした新しいサービスやビジネスモデルを検証する場として「Takamiya Lab. West」が開設されます。十分に検証を重ねることで、タカミヤにしか出せない付加価値を提供し続けることができます。まずはその第一歩として「Takamiya Lab. West」の検証結果を最大限に活用し、迅速にDX化を進めることが目標となります。

「Takamiya Lab. West」については『Compass』NO.23と今号の特集でご紹介しています。



代表取締役会長兼社長

高宮 一雅

TOP MESSAGE

更なる価値提供に 向けてタカミヤにできること ～ Takamiya Lab. Westの可能性～

「Takamiya Lab. West」の本格的な運用準備が始まる2022年。プラットフォームビジネスという新たな局面を迎えるに当たって、タカミヤにはどのような変化が起こるのか、高宮社長のビジョンを紹介します。

厳しい外部環境に負けず 需要に応え続ける

2021年には、大きな出来事がいくつかありました。まずはやはり、オリンピックが開催されたことです。日本の選手団の活躍によって、新型コロナウイルスによる鬱屈した空気が明るくなったように感じられます。建設業界もオリンピックの開催に向けて色々と呼びかけがあったから、無事に開催できた喜びはひとしおでした。

一方で2021年は原材料価格の値上がりや、物流機能の崩壊といった厳しい外部環境があったことも事実で、こうした状況が2022年どのように変わっていくのを見通すことはなかなか困難だと言わざるを得ません。社内だけではなく、お客様とのコミュニケーションの機会がコロナ禍以前と比べると減少していることは、早急に解決したい課題です。また建設現場はリモートでは対応できない業務も多くあるため、人手不足や機材搬入の遅れなどのリスクは、今後も考慮する必要があります。

一方でオミクロン株は致死率が低く、更に社会全体もニューノーマルに慣れてきていますから、通常通りの活動に戻っていくとも考えられます。更に資材不足などの懸念はありますが、タカミヤは国内に生産体制を整え、比較的生産のめどを立てやすい状態です。

いずれにせよ、長引くコロナ禍によって各地で工事のスケジュールは後ろ倒しになっており、建築資材や工事の需要は依然として高い状況です。リスクを可能な限り避け、タカミヤはこれらの需要に全社一丸となって応えていきます。

「Takamiya Lab. West」が生み出す新しいビジネスの可能性

「Takamiya Lab. West」は、お客様に最大限の利益を提供することを目的に、兵庫県・尼崎市という好立地に巨額を投じて建設しました。最新鋭のデジタル設備を備えた「Takamiya Lab. West」は、これまでの機材センターでは人力で行っていた入出庫や積み込みを全て自動化することでヒューマンエラーの撲滅、待機時間の大幅な短縮を見込んでいます。また機材をモニタリングし、管理の状態をお客様にいつでもチェックしていただけるカメラも既存のセンターよりも台数を増やしました。こうした設備によって、タカミヤの機材をより一層安心かつ便利に使っていただけるよう目指していきます。

更に「Takamiya Lab. West」は「ラボ(研究所)」という施設名通り、お客様の便利さのためにできることを考案し続ける場にしたいと考えており、機材センターとしての役割以外にも、バーチャルシステムを利用した教育施設や、屋内展示場などとしても活用していただけます。デジタル化を推進した設備を生かし、様々なサービスを提供するプラットフォームとして活用していくつもりです。

そしてここに挙げた「Takamiya Lab. West」が備えた機能は、あくまでも一例でしかありません。このプラットフォームを活用すれば、新しいサービスを無限に

広げることができます。例えば既に開発が始まっているものとして、シェアリングビジネスが挙げられます。一度購入された機材はお客様が自由に他社にレンタルでき、更に購入した機材の保管・品質保全をタカミヤが請け負うというサービスです。このように「Takamiya Lab. West」を活用し、お客様自身にもビジネスチャンスを広げていただけるようにしたいと考えています。

直近では統合型リゾート施設(IR)の開業や大阪・関西万博などの大規模なイベントによって建築の需要が高まることが予想され、「Takamiya Lab. West」の利便性を多くのお客様に体感していただけることと思います。

プラットフォームにできることは？思考を転換して考える

プラットフォームを生かしたこれまでとは全く異なるビジネスモデルに取り組むため、タカミヤでは「Takamiya Lab.本部」を全組織の上位に据え、各本部がLab.を存分に活用できる体制にしました。各本部では既に新たなプラットフォームをどのように活用するか、付加価値を高めるために何ができるか提案を始めています。

更に新しいビジネスモデルに対応するためには、社員一人ひとりが思考を180度転換させなくてはなりません。そして思考を転換するためには環境を変えることが重要だと考え、名古屋オフィスのリニューアルを行います。在宅勤務が増えている現在、多くの執務は自宅で行うことができます。そんな時代においては、心身共にリフレッシュし、リモートではできないコミュニケーションを実現することにオフィスの意義があるのでは

ないか。そんな考えから、執務室を2割にとどめ、オープンスペースを8割取る新しい形のオフィスをつくりました。自由で明るいオフィスでの会議は、お客様にとってもイベントのように楽しい時間になるはずです。また社員がリフレッシュするための設備を整え、全国の拠点をリモートでつないで顔を見合ってコミュニケーションが取れるよう、モニターも大量に用意しました。これにより、他のオフィスの業務が見えるようになり、全国拠点をまたいでのコミュニケーションがより活発になると考えています。社員同士のコミュニケーションが促進されることで、より便利なサービスを考案しやすくし、更にそのサービスを日本全国に迅速に展開させることで、お客様への新たな価値提供につながると考えています。

プラットフォームとしての成長を目指して

ここまで述べてきたように、今年はこれまでは計画段階に過ぎなかった様々な構想が形となり、お客様にお見せできるようになっていく年です。それに伴い、お客様にとってのメリットは何か、タカミヤがお客様に提供できるものは何か、ということを更に追求していきたいと考えています。

その中で私が重要視しているのは、価値と付加価値の二点です。「Takamiya Lab.」というプラットフォームは、立地やデジタル設備などの「価値」を既に備えています。一方でこの「価値」を生かし、時代やお客様のニーズに合わせて生み出すことのできるサービスが「付加価値」です。「付加価値」は、一見目に見えないものですが、この積み重なりがプラットフォームそのものの信頼につながると考えています。「価値」を高め、

「付加価値」を増やすことによって、これまで当たり前で仕方がないと思われていた不便を解決し、更に便利なサービスを、より多くのお客様に使っていただくことができるようになるはずです。このプラットフォームはこれから先ますます多くの人に必要とされ、普遍的なビジネスへと成長していくでしょう。現在「Takamiya Lab. West」はその名の通り関西地方での活用を見込んでいますが、これを皮切りに日本全国にその利便性を行き渡らせる体制を作っていきます。

「Takamiya Lab. 」には「タカミヤにしかできない」ことをたくさん詰め込みました。無限の可能性を秘めたプラットフォームを展開する「プラットフォーマー」としての成長に向けて、新たな一歩を踏み出す年にしていきたいと思います。



新たなサービスが無限 に広がるプラットフォーム

2022年より始動するTakamiya Lab. West。
今までの既成概念を覆した新たなプラットフォームにより、
タカミヤの更なるサービスの価値創造を実現します。

今までタカミヤは時代の流れを読み、先手を打ったご提案をしてきました。
そんなタカミヤの新たなサービスを創造するのが、ここ、Takamiya Lab. Westです。
お客様にとっての「なくてはならない」を実現するための様々なポイントをご紹介します。
もっと早く、もっと近くに、もっと使いやすく。
お客様の「もっと」のご希望にお応えする設備の数々を、ぜひご覧ください。

Profile

住 所：兵庫県尼崎市船出21番地1
敷地面積：57,851.08㎡
アクセス：阪神高速道路
尼崎東海岸出入口から
およそ4分

特集1
Takamiya Lab. West がついに始動!

Takamiya Lab. Westの 今を追う

広大な敷地に最新鋭のデジタル機器など、
こだわり抜かれたTakamiya Lab. Westを
八つのポイントでご紹介します。



POINT 1 お客様の使いやすさに こだわった抜群の ロケーション

兵庫県尼崎市に位置するTakamiya Lab. Westは、阪神高速道路尼崎東海岸出入口から程近い好立地。大阪の中心部からおよそ30分ほどと近隣地域へのアクセスも抜群です。シェアリングビジネスを始め、今後の展開を見据えた時に、可能な限り都心に近い場所での運用が必須です。とことんお客様の使いやすさにこだわり、よりタカミヤのサービスをご利用いただきたいと考えています。

POINT 2 タカミヤの中でも最大規模の 敷地面積を誇るヤード

東京ドーム約1.3個分(57,851.08㎡)にも及ぶ広大な敷地は、
大量の機材の取り扱いでも対応可能な収容機能を誇ります。今
後は新たなサービスを生み出すラボとして、よりこの広大な敷地
を最大限に生かした、タカミヤの強みを更に増幅させるような展
開を予定しています。



POINT 3 お客様が安らげる 空間づくりにこだわった エントランス

エントランスはお客様にリラックスしていただける
よう、明るく広々とした空間です。受付時間や待ち
時間でもちょっとした休憩場所として、ドライバー
の皆様にも少しでも安らぎの時間をという思いから、
ドリンクサービスもご用意しておりますので、どうぞ
ご利用ください。



POINT 4 トラックスケールによる 出荷・返納のエビデンスを蓄積

Takamiya Lab. Westでの積み込み作業などは、
将来的には無人化を目指しています。安全安心を実現
するための一つとして、トラックスケールを導入してい
ます。入退場時の出荷・返納データを即時に管理し、
積み荷の間違いを撲滅。エビデンスを蓄積・管理する
ことで、お客様の信頼を高めています。



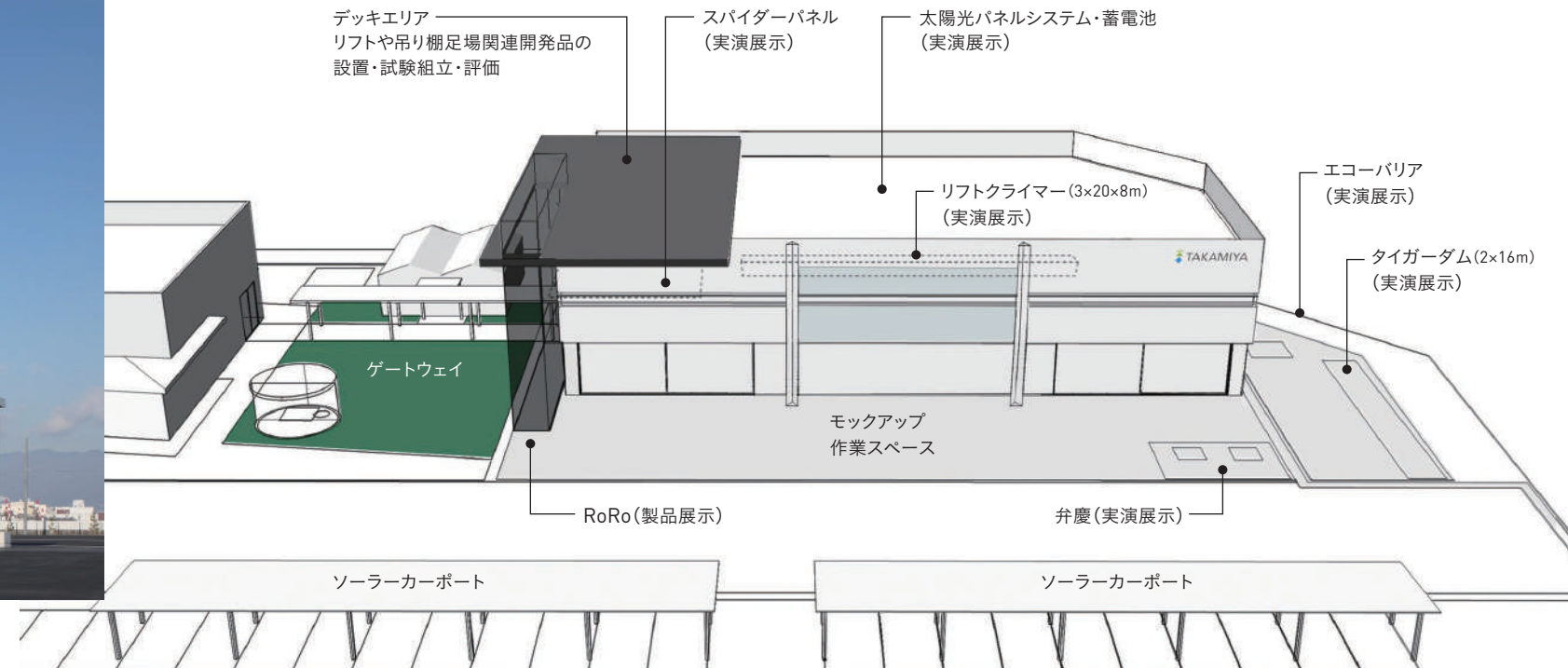
POINT 5 約50台のカメラでも、 エビデンスを蓄積・管理、 ヒューマンエラーの改善へ

一般的なヤードよりも台数を大幅に増やしカメラを
場内に約50台設置。Takamiya Lab. West全体の
管理や、検収・整備のエビデンスを蓄積、そして人為的
ミスが起きないための課題分析など、データ分析を行い、
信頼性を高め、全国のヤードの進化へとつなげます。



POINT 6 正確かつスピーディーな自動倉庫の導入

タカミヤ初の自動倉庫を導入しました。通常よりも省スペースで、かつ収納効率を高めた自動倉庫は、人が介入していないことで、安全かつ人為的ミスをなくすことを実現。在庫管理が容易になり、先入れ・先出しが可能になりました。ここで蓄積したノウハウは、将来的に実現する無人化への布石となります。



※検討中の構想図です。今後、変更の可能性がございますので、ご了承ください。

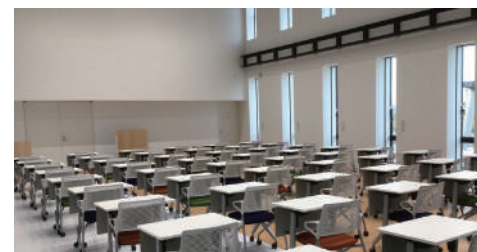
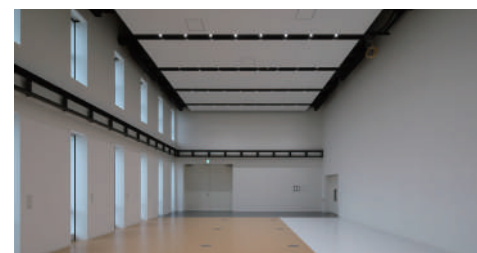
POINT 8 様々な用途に活用可能な展示棟 (建設中)

現在、建設中の展示棟では、タカミヤ製品の魅力発信はもちろん、建設業界に特化した様々な展示会を行うことにより、常にお客様にとって価値のある情報発信を行っていきます。また、コンベンションホールに隣接していることを生かして、座学で学んだ知識を展示棟で実体験していただくなど、座学と実技を複合的に学べる施設となります。



POINT 7 セミナーや研修で活用できるコンベンションホール

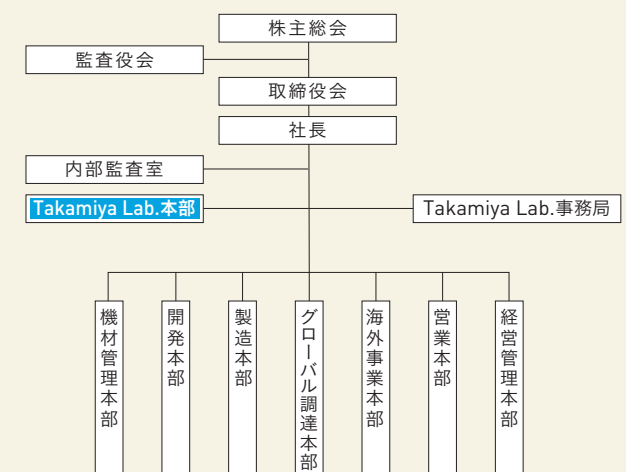
Takamiya Lab. Westでは、様々なサービスの提供を考えています。その一つがタカミヤだから提供できる各種セミナーや研修です。お客様のニーズに合わせた足場安全教育や技能向上研修を予定しています。広々としたホールでは、最大40名の座学講習が可能で、壁面・床面が一体となった巨大スクリーンを実装。他社では体感できない研修を目指しています。



「Takamiya Lab.」を中心とした組織改編を行いました。

今年度より「ラボ事業本部」を全事業部の上に据えた新体制が始まりました。各事業部長は「ラボ事業本部」の副部長も兼任。各事業部がTakamiya Lab.の設備を最大限に活用することで、全社一丸となってお客様へのサービスを充足させていきます。

組織変更





【特集2】

名古屋オフィスがリニューアル！ 最先端オフィスがタカミヤの働き方を変える

今タカミヤは、新たなビジネスモデルへの変革の渦中にあります。

世の中の激しい変化だけでなく、業務内容がめまぐるしく変わっていく今、どんな働き方が求められているのでしょうか。

今回は働き方改革の先陣を切って、名古屋に新設されるオフィスを通して、タカミヤの新たな働き方をご紹介します。

なぜ、オフィスのリニューアルで働き方改革？

テレワークが進み在宅勤務が当たり前になった現代、働く場所だけでなく働き方や、働くことに対する意識そのものに変革が求められています。そこでオフィスを「執務のための場」ではなく「リフレッシュのための場」として機能を見直すことになりました。どこで、どんな風に、誰と、何時間働くのか。これからは全てが自由です。このオフィスを活用し、生産効率を上げ、成果を出すことができる、自分に合った働き方を模索していきましょう。



名古屋オフィス

Point

新設される名古屋オフィスはノリタケの森に隣接する「AEON MALL Nagoya Noritake Garden」のオフィスエリアにあり、レストランやフィットネスクラブなど、リフレッシュに役立つ設備を気軽に使用できます。

Address

〒451-0051
名古屋市中区則武新町
3丁目1-17
BIZrium名古屋 5階

TOP MESSAGE

トランスフォーメーションを加速させ、新しいビジネスモデルに対応していくためには働く環境を変えることが重要

これまで進めてきたトランスフォーメーションを加速させ、新しいビジネスモデルに対応していくためには、180度の思考転換が必要です。そのためには働く環境を変えることが重要だと考え、今回新しいオフィスをつくりました。在宅勤務で固まった体をほぐすためにヨガをしに来る。広い場所で寝転びながら仕事をするために来る。思考を柔らかくするために対面でのコミュニケーションを取りに来るなど、自分に合った使い方を自分自身で考えていただきたいのです。新型コロナが収まったら隣接するショッピングセンターでおいしいご飯を買ってきて、オフィスで食事会をするのも良いリフレッシュになると思います。在宅勤務でも執務は可能ですが、私はオフィスをリフレッシュの場として最大限活用していただきたいと考えています。この名古屋オフィスには、社員一人ひとりが自走する思考基盤を醸成するために必要な設備を取りそろえました。今後他の拠点でもこのようにオフィスをリニューアルしていくつもりです。タカミヤの更なる価値創造に向けて、新しい環境で皆さん自身を変革させていってください。



代表取締役会長
兼 社長
高宮 一雅

New Work Style

新たな働き方のポイントをご紹介します。

POINT 01

従来のオフィスの概念を取っ払った 自由なスペースの活用

固定電話の廃止やクラウドシステムの導入によって働く場所を固定する要因を排除し、働く場所を自分で選べるようにしました。また働く場所が自由になることで、拠点をまたいだフォローが可能になります。

POINT 02

テレワークのストレス解消！ オフィスを「憩いの場」へ

コミュニケーション不足や在宅勤務によるストレスは、オープンスペースや小上がりになったスペースでカジュアルな意見交換ができるように。また休憩時間などでリフレッシュすることもできます。楽しく明るいオフィスでは従業員同士の会話も弾み、新しい発想を得られるかもしれません。

POINT 03

フレックスタイム制でプライベート との両立を実現

社員一人ひとり、家庭環境や業務内容はそれぞれです。自分の生産性に応じて働く時間や時間帯を自分で選ぶことができるフレックスタイム制を導入します。

POINT 04

テレマネジメントで目標達成を 目指す

働く時間も場所も自由。だからこそ綿密な報連相によって目標を達成できるよう、また成果が正当に評価されるよう、各種オンラインコミュニケーションツール設備を整えました。



POINT 01 >>

執務室

顔を見合って話せるモニター

他拠点や在宅勤務者とのコミュニケーションでも顔を見合えるよう、モニターを完備。機密性の高い情報を扱う時や一人で集中したい時に使える個人用スペースもあります。

Floor Map >>



POINT 02 >>

エントランス

いつでも「愛」がある場所に

オフィスに一歩足を踏み入ると、まず目に入るのは社是である「愛」の文字。オフィスにやってきた社員にもお客様にも、タカミヤの「愛」を伝えてくれます。

Work Space

名古屋オフィス紹介

新設された名古屋オフィスには、
リフレッシュし仕事の効率を上げるための工夫が盛りだくさん。
オフィスのオープンに先駆け、
新しい働き方を実践できる特徴をご紹介します。



POINT 03 >>

小上がり

好きな姿勢でリラックス

靴を脱いで上がる小上がりは、正座でもあぐらでも、もちろん寝転がることもできます。自分が快適な姿勢でリラックスして業務に取り組みます。



POINT 04 >>

オープンスペース

開放的なスペースで コミュニケーション促進

オフィスの8割を占めるオープンスペース。開放的な空間でコミュニケーションも仕事もはかどります。座る場所も自由なので、気分や用途に合わせて使い分けが可能です。

Column

シェアオフィスの活用で 更なる生産性をアップ！

名古屋オフィスの執務室はここだけではありません。名古屋オフィス近くにある「ノリタケの森」に隣接するイオンモール「ノリタケの森プロジェクト」内のシェアオフィスは、高級食器などで知られるノリタケカンパニーリミテドの本社工場跡地にある複合施設です。オープンスペースや会議室なども利用できるので、気分を変えて業務をすることも可能です。天気の良い日は、緑の中で仕事をするのもいいかもしれませんね！

